

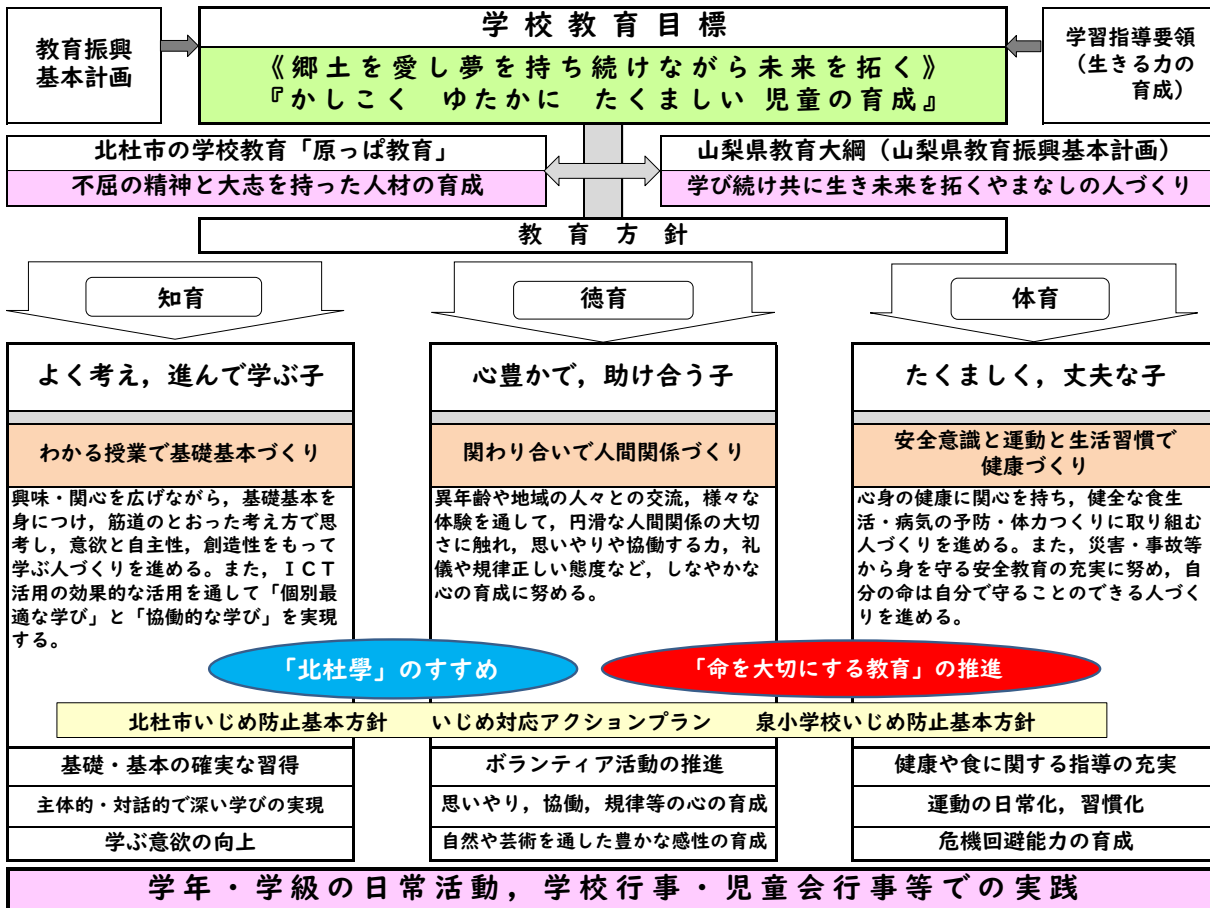
- 児童の実態
- 地域の実態
- 保護者の願い
- 地域の願い

共に育つ学校

- 法令等
- 中教審・教科審答申
- 学習指導要領
- 県学校指導重点

～ 家庭・地域・学校が協働して児童を育てるコミュニティ・スクール ～

個々の子どもに目が行き届き、成長を実感できる教育を目指す。「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を図りながら、一人一人の児童に対応した取組を通して、個々と集団をのばし、その成長を児童・保護者・職員・地域の方が確認できる教育を実践する。



学年・学級の日常活動、学校行事・児童会行事等での実践

「人・もの・こと」との『出会い・ふれあい・つうじあい』

豊かな自然・地域の伝統・関わり合う人々・信頼し合えるコミュニティ

令和5年度は、ウィズコロナの中で、改めて教職員が児童とじっくり向き合う時間の確保を目指す。そのために教育活動の目的や意義を再確認し、より一層の「学校のスリム化、教育内容の整理・統合・再構築」を進める。これは教職員の「働き方改革」にもつながる課題である。

- ◎深い学びの実現
 - ・ICTの効果的活用
 - ・「やまなしスタンダード」
- ◎ふるさと大行進
 - ※変更した内容での継続実施
 - ・「北杜学」のすすめ
- ◎特別支援に関わる校内委員会の適切な実施

- ◎教育相談の充実
 - ・SCとの全局面談
- ◎いじめを許さない集団づくり
 - ・「いじめ防止基本方針」の周知
- ◎不登校児童・保護者への継続的なアプローチ
 - ・SSWとの情報共有
 - ・「エール」との連携強化

- ◎運動会
 - ※変更した内容での継続実施と検証
- ◎感染症への継続的な対応
 - ※自ら適切な行動がとれるような実践的指導
- ◎スケートクラブ
 - ※見通しをもった社会体育への段階的移行

※改正給特法（R2.4.1～）教員の残業時間を原則月45時間、年360時間を上限とする。（一日平均1.5h⇒午後6時頃には退勤）
 「山梨県総合計画」に「令和4年度末までに時間外在校時間が月80時間を超える教職員をゼロにする。」と明記されている。